
平成19年3月期決算概要
および
「NewKG200」の総括

2007(平成19)年5月31日

 兼松株式会社
KANEMATSU CORPORATION

目次

・ 平成19年3月期決算の概要	1
1. 連結決算 収益の状況	2
2. 連結バランスシート	10
3. 連結キャッシュフロー	12
4. 関係会社及び従業員の状況	14
(ご参考) 単体決算	16
・ 中期経営計画「NewKG200」の総括	17
1. 重点目標	18
2. グループ経営革新の推進	20
3. 営業推進力の強化	20
4. セグメント別の収益成長	21
・ 参考資料(決算短信、貿易記者クラブ回答)	

・平成19年3月期決算の概要

1. 連結決算 収益の状況

「NewKG200」の最終年度である平成19年3月期決算は、最優先課題としてきた営業基盤の強化が結実し、売上高・売上総利益・営業利益・経常利益いずれも前期比大幅な増収増益を達成。

売上高は前期比16.9%の増収。売上総利益は、1,000億円の大台を突破し、前期比で26.9%の大幅増益。売上総利益率も8.1%に改善。営業利益は217億円と前期比20.7%の増益。経常利益は173億円と前期比9.8%の増益。当期純利益は75億円を確保。

(単位:百万円)

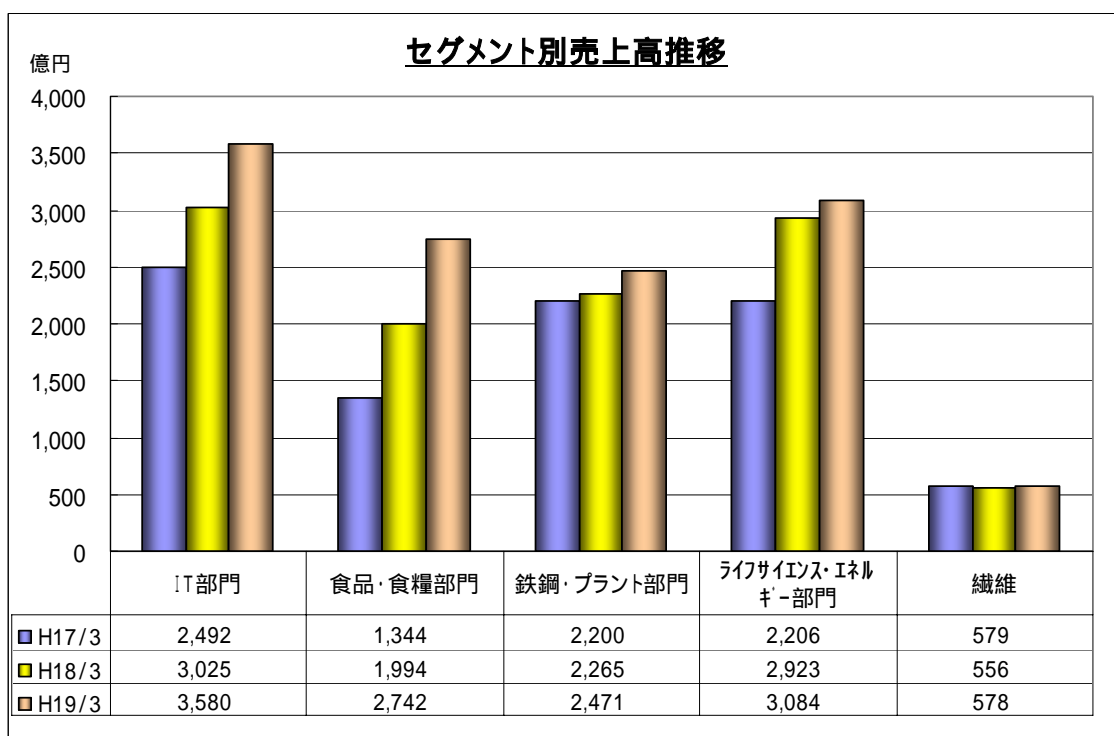
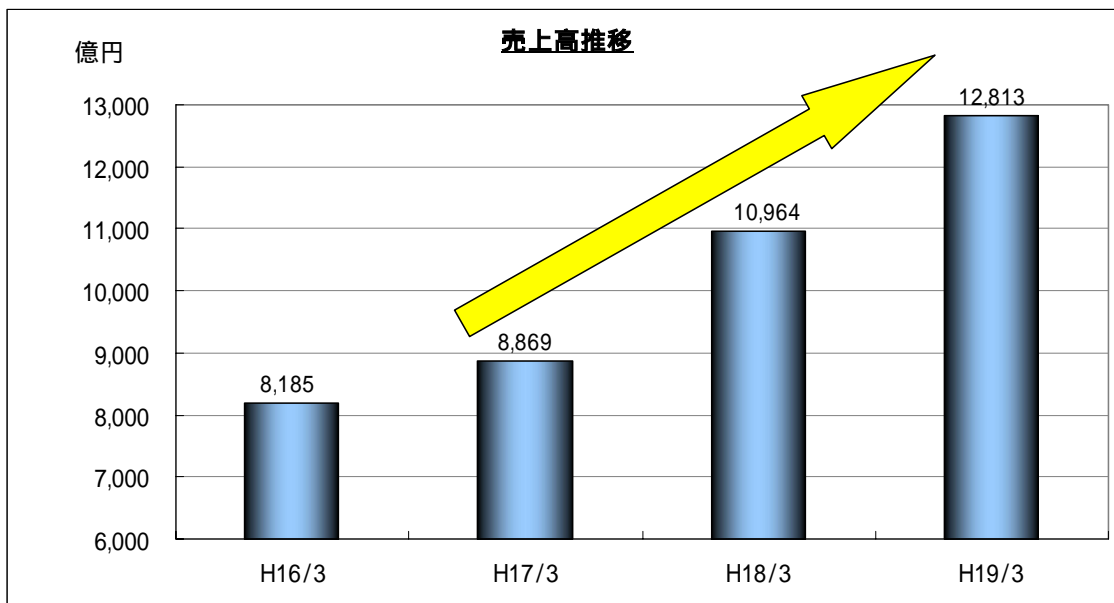
	平成18年3月期		平成19年3月期		前期比	
	売上高対比		売上高対比		増減額	増減率
売上高	1,096,409	100.0%	1,281,331	100.0%	184,922	16.9%
売上総利益	81,732	7.5%	103,711	8.1%	21,979	26.9%
営業利益	17,982	1.6%	21,713	1.7%	3,731	20.7%
経常利益	15,709	1.4%	17,255	1.3%	1,546	9.8%
税引前当期純利益	16,728	1.5%	14,615	1.1%	31,343	-
当期純利益	21,686	2.0%	7,507	0.6%	29,193	-

(1) 売上高

全セグメントで前期比増収。

(単位:百万円)

	平成18年3月期		平成19年3月期		前期比	
	実績	比率	実績	比率	増減額	増減率
Ⅰ Ⅰ 部門	302,521	27.6%	357,954	27.9%	55,433	18.3%
食品・食糧部門	199,350	18.2%	274,163	21.4%	74,813	37.5%
鉄 鋼	124,605	11.4%	142,687	11.1%	18,082	14.5%
プ ラ ント	101,922	9.3%	104,437	8.2%	2,515	2.5%
鉄鋼・プラント部門	226,528	20.7%	247,125	19.3%	20,597	9.1%
エネルギー	263,473	24.0%	276,852	21.6%	13,379	5.1%
ライフサイエンス	28,816	2.6%	31,538	2.5%	2,722	9.4%
ライフサイエンス・エネルギー部門	292,289	26.6%	308,390	24.1%	16,101	5.5%
織 維	55,620	5.1%	57,757	4.5%	2,137	3.8%
そ の 他	20,461	1.9%	36,129	2.8%	15,668	76.6%
消去又は全社	362	0.0%	189	0.0%	173	-
合 計	1,096,409	100.0%	1,281,331	100.0%	184,922	16.9%



(2) 売上総利益

- 1,000 億円台の大台を突破し、前期比 220 億円の大増益。セグメント別では IT、食品・食糧部門が大増益。

(単位:百万円)

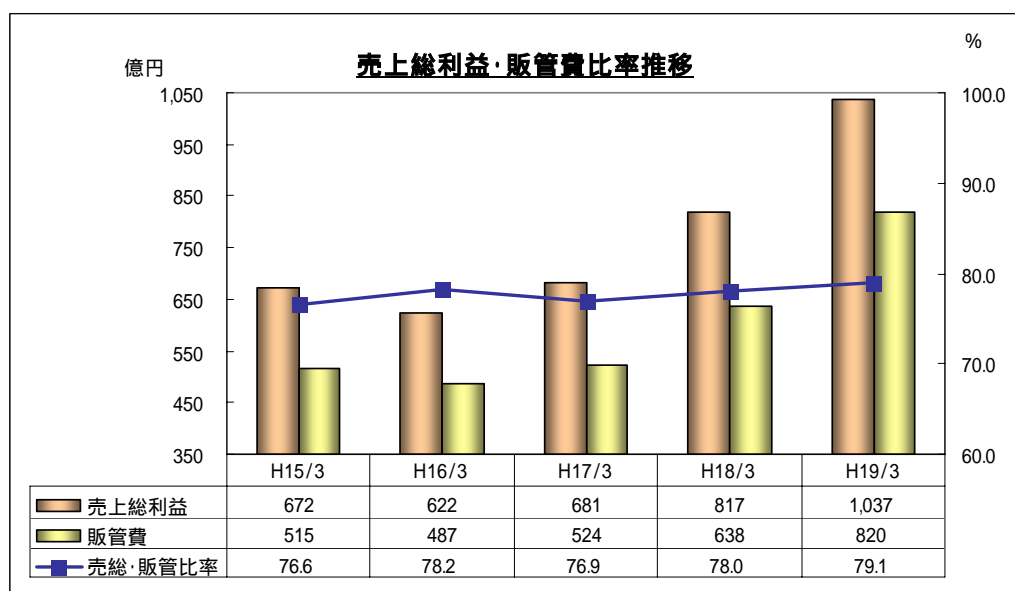
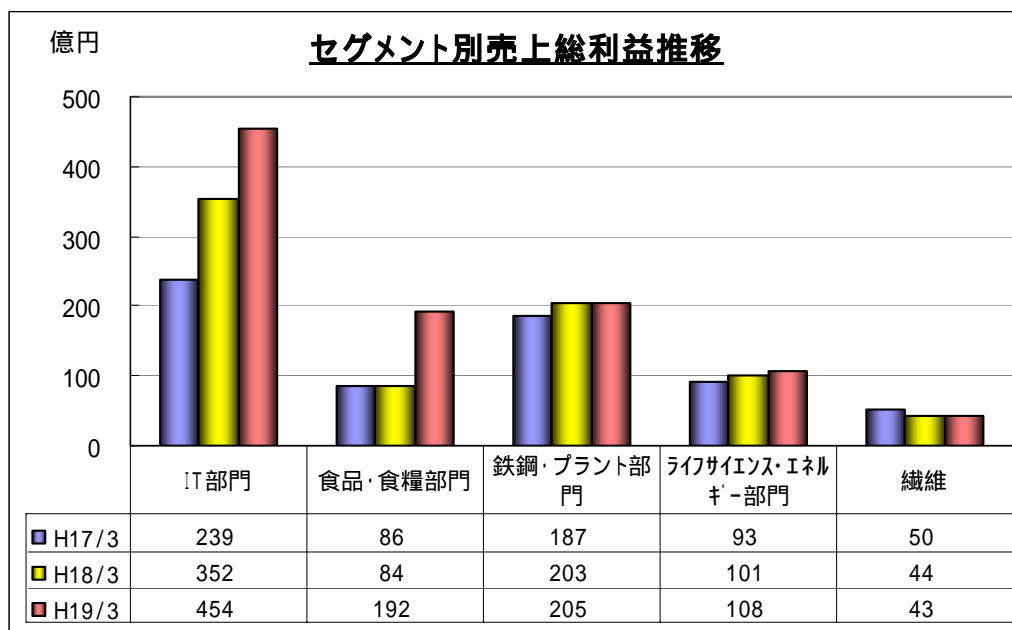
	平成18年3月期		平成19年3月期		前期比 増減額	利益率 増減
	実績	利益率	実績	利益率		
IT 部門	35,218	11.6%	45,445	12.7%	10,227	1.1%
食品・食糧部門	8,396	4.2%	19,200	7.0%	10,804	2.8%
鉄 鋼	10,071	8.1%	10,047	7.0%	24	1.1%
プ ラ ント	10,259	10.1%	10,492	10.0%	233	0.1%
鉄鋼・プラント部門	20,330	9.0%	20,540	8.3%	210	0.7%
エ ネ ル ギ ー	7,802	3.0%	8,509	3.1%	707	0.1%
ライフサイエンス	2,338	8.1%	2,257	7.2%	81	0.9%
ライフサイエンス・エネルギー部門	10,140	3.5%	10,766	3.5%	626	0.0%
織 維	4,374	7.9%	4,347	7.5%	27	0.4%
そ の 他	3,272	16.0%	3,411	9.4%	139	6.6%
消去又は全社	0	-	0	-	0	-
合 計	81,732	7.5%	103,711	8.1%	21,979	0.6%

(3) 販売費及び一般管理費

- 売上高増加に伴い販管費は増加。

(単位:百万円)

	平成18年3月期	平成19年3月期	前期比
人 件 費	32,471	39,967	7,496
物 件 費	31,279	42,030	10,751
内、貸倒引当金繰入額	605	743	138
販売費・一般管理費	63,750	81,997	18,247
内、連結子会社	47,117	65,647	18,530
売上総利益販管費率	78.0%	79.1%	1.1%



(4) 営業利益

- IT、食品・食糧、エネルギー部門で大幅増益。全体でも前期比 37 億円の増益。

(単位:百万円)

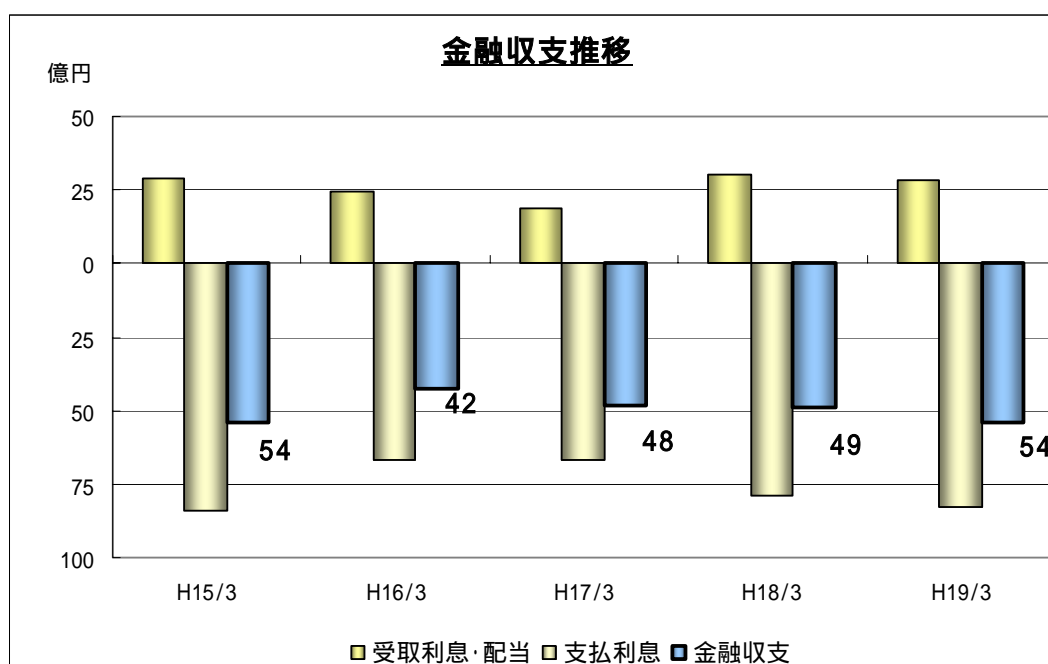
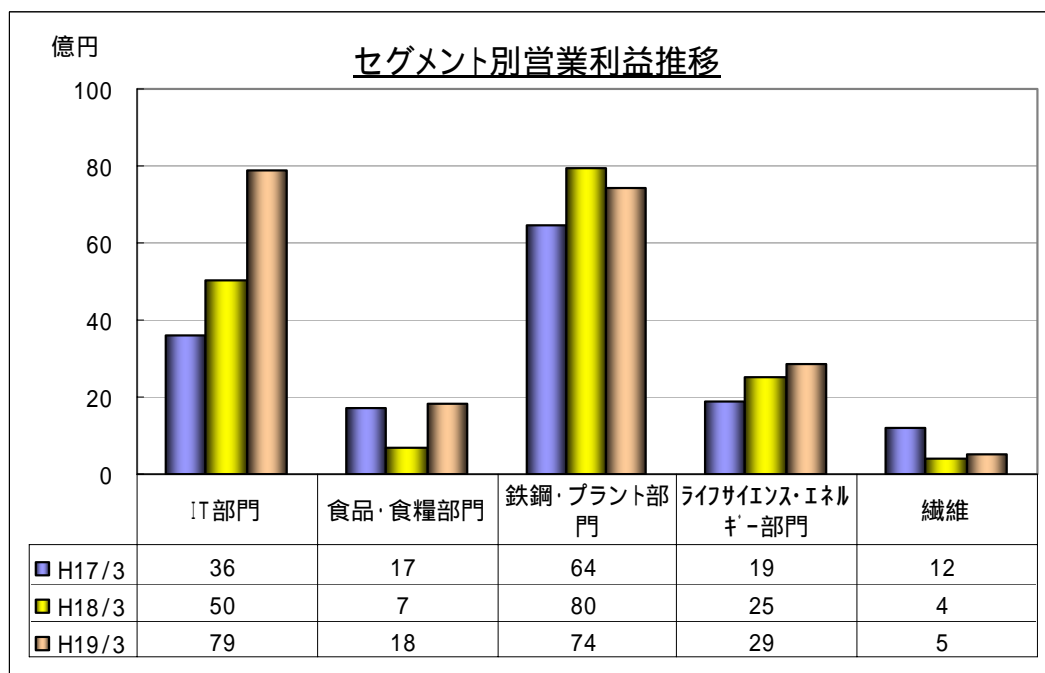
	平成18年3月期		平成19年3月期		前期比	利益率 増減
	実績	利益率	実績	利益率	実績	
IT部門	5,032	1.7%	7,913	2.2%	2,881	0.5%
食品・食糧部門	705	0.4%	1,806	0.7%	1,101	0.3%
鉄鋼	5,453	4.4%	5,475	3.8%	22	0.5%
	プラント	2,502	2.5%	1,945	1.9%	557
鉄鋼・プラント部門	7,955	3.5%	7,421	3.0%	534	0.5%
エネルギー	1,922	0.7%	2,492	0.9%	570	0.2%
ライフサイエンス	567	2.0%	360	1.1%	207	0.8%
ライフサイエンス・エネルギー部門	2,490	0.9%	2,852	0.9%	362	0.1%
繊維	424	0.8%	486	0.8%	62	0.1%
その他	1,081	5.3%	510	1.4%	571	3.9%
消去又は全社	291	-	723	-	432	-
合計	17,982	1.6%	21,713	1.7%	3,731	0.1%

(5) 営業外収支

- 受取配当金の減少、持分法損益の減少により、収支は悪化。

(単位:百万円)

	平成18年3月期	平成19年3月期	前期比
受取配当金	1,702	1,282	420
受取利息	1,290	1,572	282
支払利息	7,909	8,278	369
金融収支	4,916	5,423	507
持分法損益	1,671	731	940
その他	971	235	736
営業外収支	2,273	4,457	2,184



(6) 経常利益

- 173 億円と前期比 15 億円の増益。
- 基礎的収益力も 178 億円と前期比 24 億円の増加。

(単位:百万円)

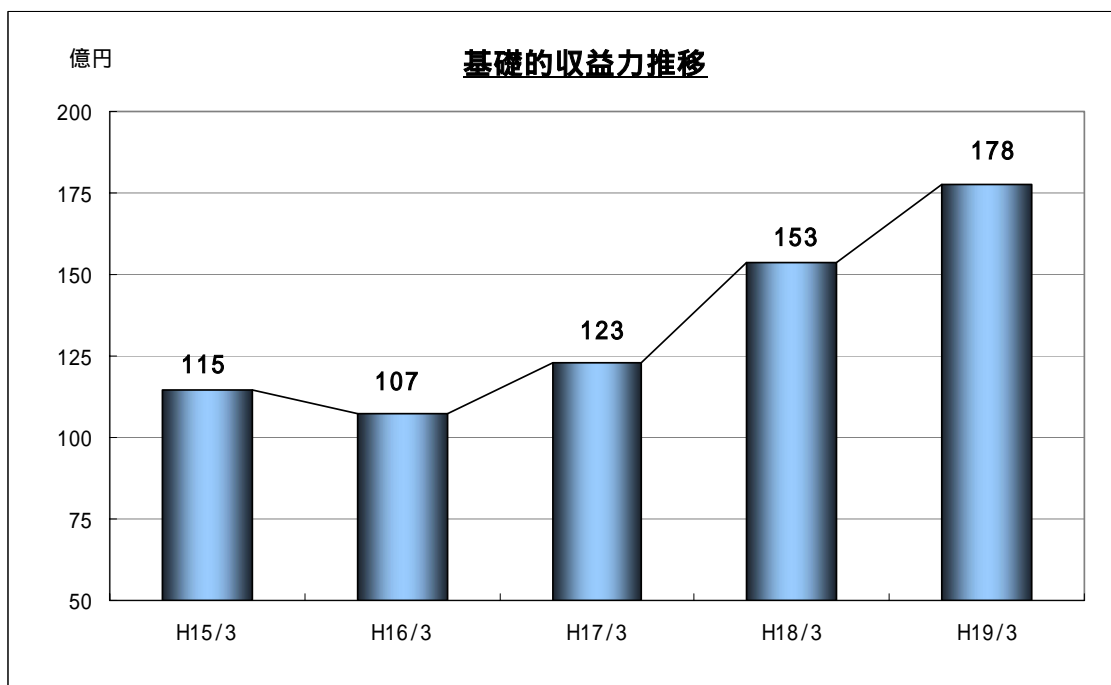
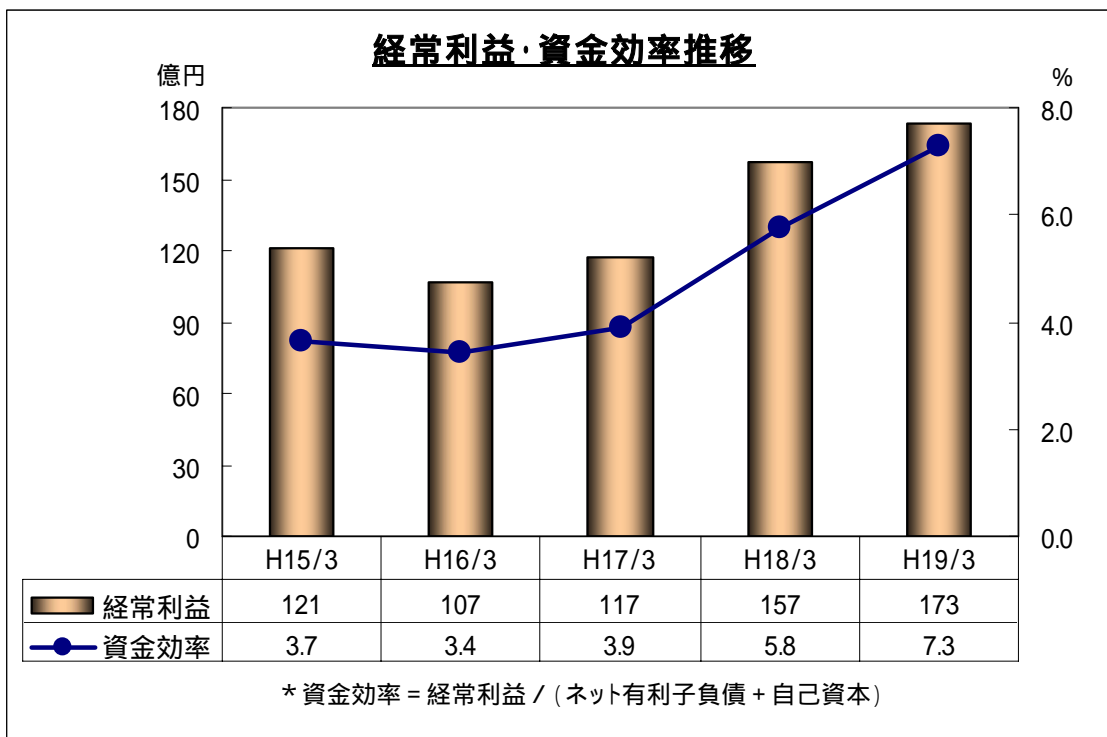
	平成18年3月期	平成19年3月期	前期比
経常利益	15,709	17,255	1,546
経常利益率	1.4%	1.3%	0.1%
基礎的収益力	15,342	17,764	2,422

* 基礎的収益力 = 営業利益 + 貸倒引当金繰入額 + 金融収支 + 持分法損益

(7) 特別損益と当期純利益

- 不動産および投資有価証券の処分を進め、特別利益を計上。
- 一方、新東亜取引における石油取引の損失、スキー事業からの撤退、子会社における固定資産減損処理を実施した結果、特別損益合計では 26 億円の損失。

	平成18年3月期	平成19年3月期	前期比
有形固定資産等売却益	352	6,655	6,303
投資有価証券売却益	6,334	1,574	4,760
事業譲渡益	1,429	-	1,429
その他の特別利益	965	550	415
特別利益	9,080	8,779	301
有形固定資産等処分損	311	1,058	747
減損損失	14,593	2,309	12,284
投資有価証券売却損	110	225	115
投資有価証券評価損	2,971	532	2,439
関係会社等事業整理損	788	1,153	365
特定事業用資産評価損	6,208	-	6,208
関係会社等貸倒引当金繰入額	2,081	725	1,356
特定事業債権貸倒引当金繰入額	13,410	3,877	9,533
その他の特別損失	1,045	1,541	496
特別損失	41,517	11,420	30,097
特別損益	32,437	2,641	29,796
税引前当期純利益	16,728	14,615	31,343
法人税等及び少数株主損益	4,958	7,107	2,149
当期純利益	21,686	7,507	29,193



2. 連結バランスシート

ネット有利子負債は、「NewKG200」での最終年度目標 2,500 億円を大幅に下回り、2,049 億円に減少。自己資本については、当期純利益の積み上げにより 330 億円まで回復。その結果、自己資本比率は 5.9%、ネット DER は 6.2 倍に改善。営業用資産が増加する一方、固定資産は処分等により減少し、資産内容は大幅に改善。

(1) 有利子負債の状況

- 長期資金借換により長期借入金比率が改善。ネット有利子負債は 2,049 億円と前期末比 414 億円減少。
- 流動比率は 110.6%に改善され財務の安定性が向上。

(単位:百万円)

	平成18年3月末		平成19年3月末		前期末比	
		構成比		構成比	増減額	増減率
短期借入金	215,885	72.3%	143,527	53.0%	72,358	-
長期借入金	82,548	27.7%	127,151	47.0%	44,603	-
グロス有利子負債	298,433		270,678		27,755	9.3%
ネット有利子負債 (注1)	246,317		204,900		41,417	16.8%
流動比率 (注2)	92.0%		110.6%		18.6%	-

(注1) ネット有利子負債 = グロス有利子負債 - 現金及び預金

(注2) 流動比率 = 流動資産 / 流動負債

(2) 純資産の状況

- 利益の積み上げにより純資産合計は 488 億円と、前期末比 78 億円の改善。

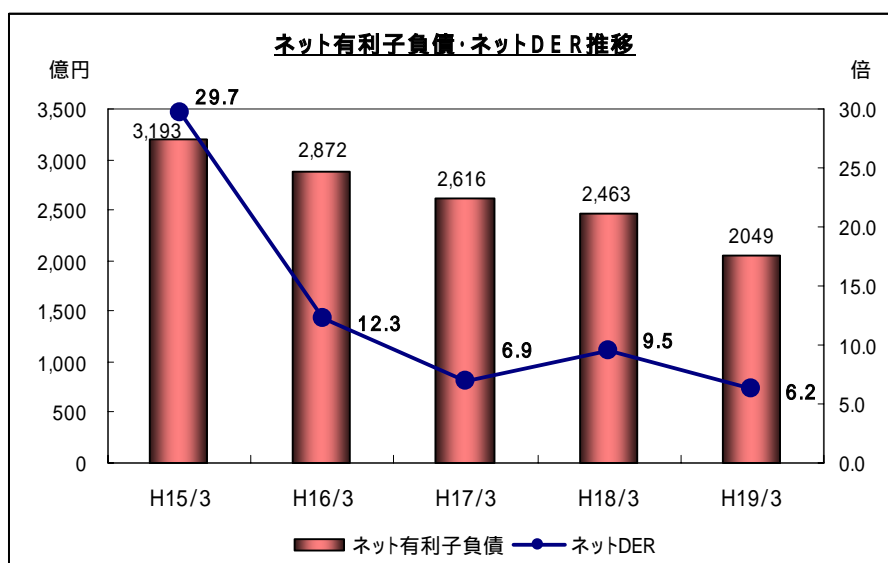
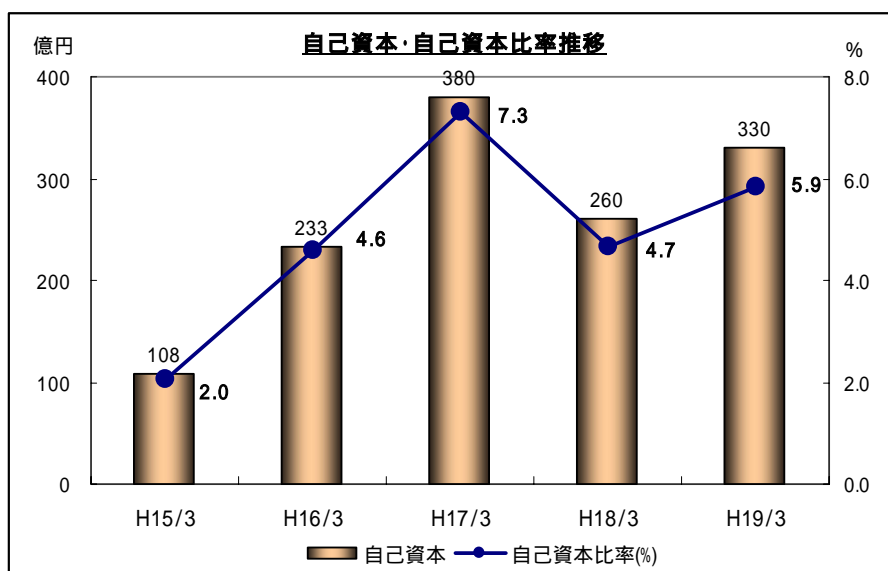
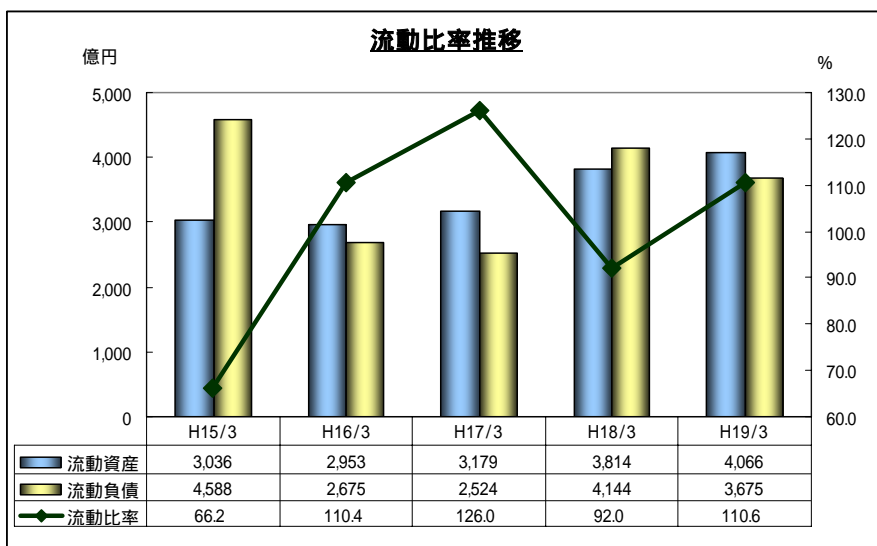
(単位:百万円)

	平成18年3月末	平成19年3月末	前期末比	
			増減額	増減率
資本金	27,781	27,781	0	0.0%
資本剰余金	27,641	27,646	5	0.0%
利益剰余金	16,294	9,496	6,798	-
自己株式	600	627	27	-
その他有価証券評価差額金	4,816	3,853	963	20.0%
繰延ヘッジ損益	-	112	112	-
土地再評価差額金	58	58	0	-
為替換算調整勘定 (注)	17,397	16,368	1,029	-
少数株主持分	14,972	15,807	835	5.6%
純資産合計	40,977	48,767	7,790	19.0%
自己資本比率	4.7%	5.9%		
ネット DER	9.5倍	6.2倍		

(注) 為替レート: 平成18年3月末 117.47円 / US\$

平成19年3月末 118.05円 / US\$

平成19年3月期からの表示の変更に伴い、前連結会計年度についても、「資本の部」を「純資産の部」に組み替えて表示。但し、「繰延ヘッジ損益」については、組み替えを行っていない。



(3) 資産勘定別明細

- 総資産は、前期末比 71 億円増加。営業用資産などの流動資産が増加する一方、不動産などの処分により有形固定資産が減少しており、内容は大幅に改善。

(単位:百万円)

	平成18年3月末	平成19年3月末	前期末比	
			増減額	増減率
現金及び預金	52,115	65,778	13,663	26.2%
受取手形及び売掛金	197,953	205,639	7,686	3.9%
棚卸資産	79,737	84,942	5,205	6.5%
投資 ^(注)	74,991	71,616	3,375	4.5%
貸付金 ^(注)	33,187	19,376	13,811	41.6%
有形固定資産	51,041	40,601	10,440	20.5%
繰延税金資産	25,045	24,250	795	3.2%
その他	84,961	81,475	3,486	4.1%
貸倒引当金	42,984	30,501	12,483	-
資産合計	556,046	563,176	7,130	1.3%

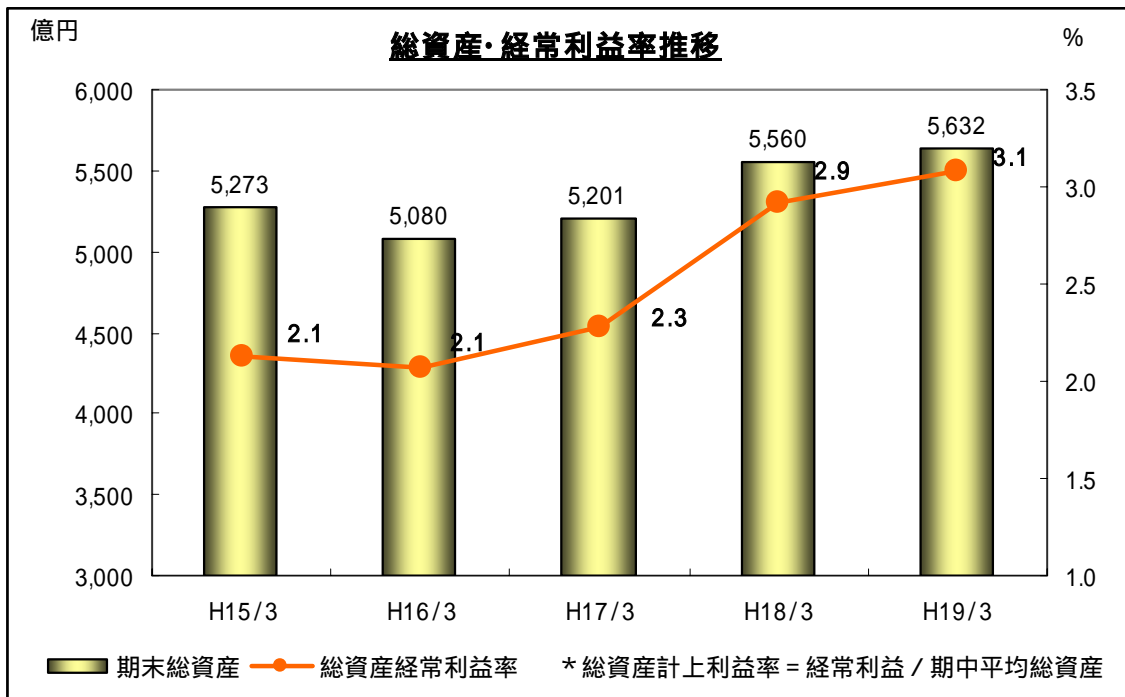
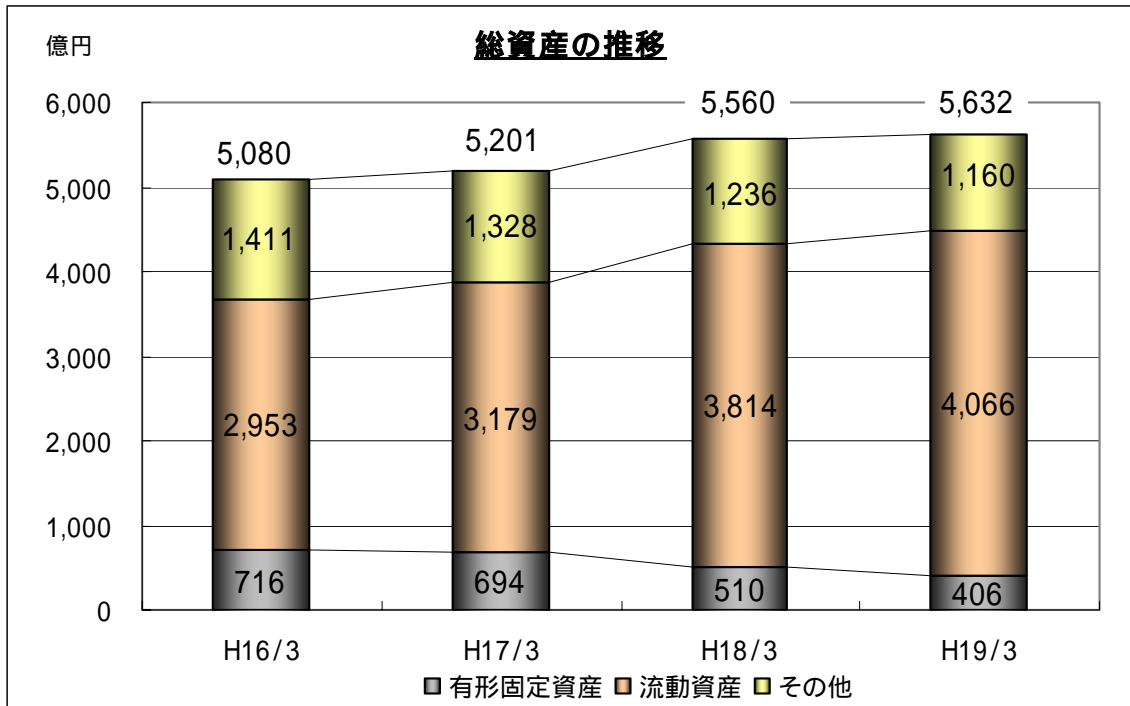
(注) 投資 = 有価証券 + 投資有価証券

貸付金 = 短期貸付金 + 長期貸付金

3. 連結キャッシュ・フロー

(単位:百万円)

	平成18年3月末	平成19年3月末	前期末比
営業活動によるキャッシュ・フロー	19,720	20,874	1,154
投資活動によるキャッシュ・フロー	7,822	23,149	15,327
フリーキャッシュ・フロー合計	27,542	44,023	16,481
財務活動によるキャッシュ・フロー	26,583	30,267	3,684



4. 関係会社及び従業員の状況

● 連結会社の黒字・赤字会社数推移状況

(単位:社)

	平成18年3月期					平成19年3月期					前期比
	連結		持分		合計	連結		持分		合計	
	国内	海外	国内	海外		国内	海外	国内	海外		
黒字会社	32	30	19	19	100	41	30	18	21	110	10
黒字会社比率(%)	64.0%	78.9%	61.3%	82.6%	70.4%	78.8%	76.9%	60.0%	65.6%	71.9%	1.5%
赤字会社	18	8	12	4	42	11	9	12	11	43	1
合計	50	38	31	23	142	52	39	30	32	153	11

● 連結会社の黒字・赤字額推移状況

(単位:億円)

	平成18年3月期					平成19年3月期					前期比
	連結		持分		合計	連結		持分		合計	
	国内	海外	国内	海外		国内	海外	国内	海外		
黒字額	37	42	9	11	98	52	26	6	15	99	1
赤字額	128	18	3	0	149	48	22	12	2	84	65
合計	92	24	6	11	51	4	4	6	13	15	66

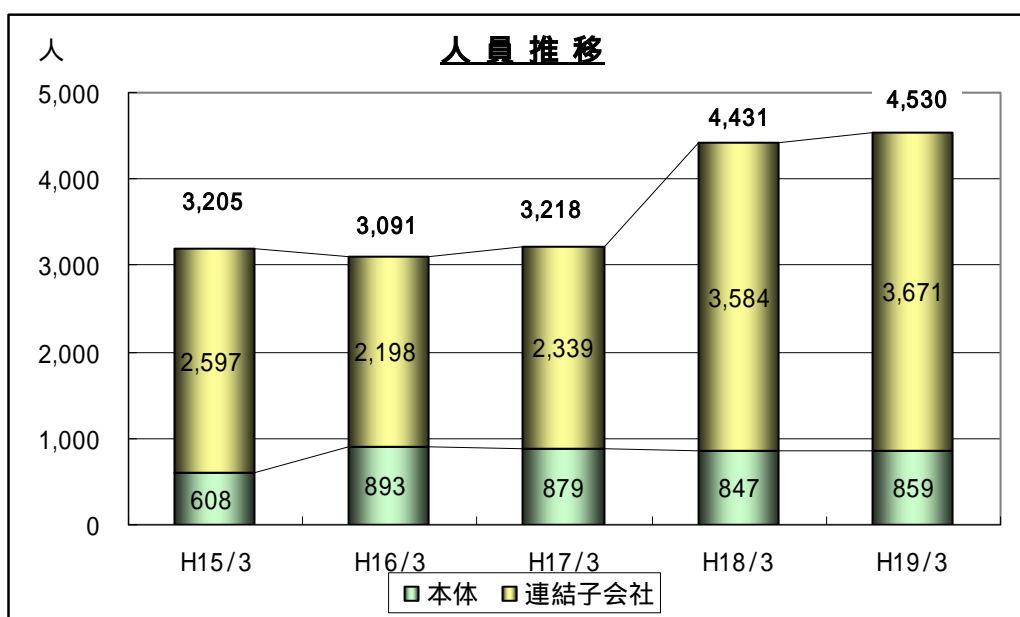
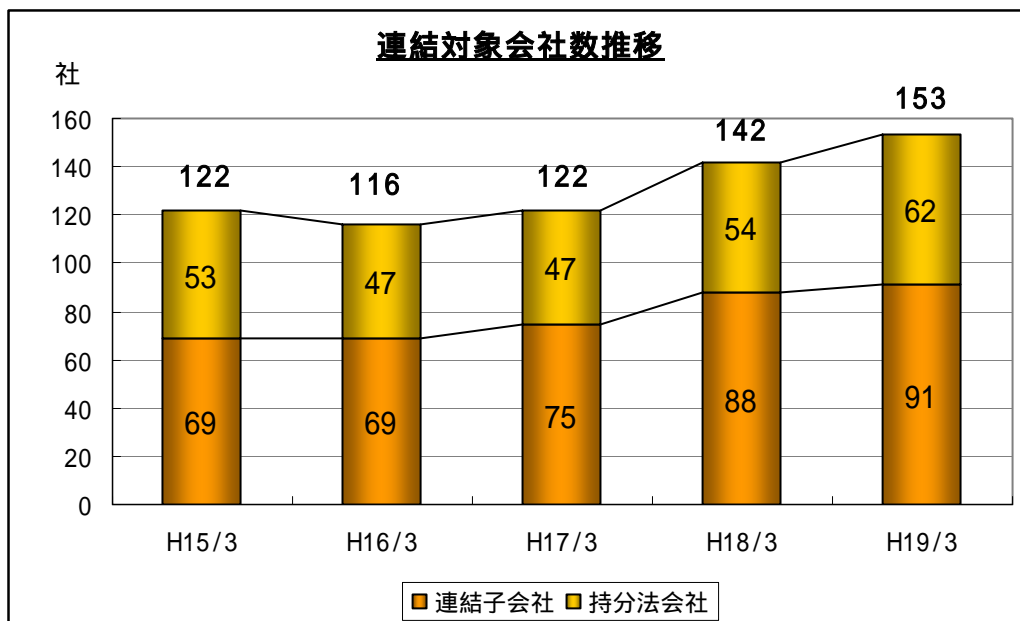
(注)連結調整を加味しない単純合算。

● 従業員の状況

(単位:人)

	平成18年3月末	平成19年3月末	平成18年3月末比	
			増減	増減率
単体	847	859	12	1.4%
連結子会社	3,584	3,671	87	2.4%
合計	4,431	4,530	99	2.2%

(注)他社から単体への出向者15人を含めると、合計従業員数は4,545人。



(ご参考) 単体決算

1. 収益の状況

(単位:百万円)

	平成18年3月期		平成19年3月期		前期比	
	売上高対比		売上高対比		増減額	増減率
売上高	512,251	100.0%	541,154	100.0%	28,903	5.6%
売上総利益	20,185	3.9%	22,397	4.1%	2,212	11.0%
営業利益	3,552	0.7%	6,046	1.1%	2,494	70.2%
経常利益	6,829	1.3%	9,412	1.7%	2,583	37.8%
税引前当期純利益	26,053	5.1%	4,248	0.8%	30,301	-
当期純利益	25,479	5.0%	3,240	0.6%	28,719	-

2. バランスシート

(1) 総資産と有利子負債の状況

(単位:百万円)

	平成18年3月期	平成19年3月期	前期末比	
			増減額	増減率
総資産	404,086	390,045	14,041	3.5%
グロス有利子負債	261,624	236,686	24,938	9.5%
ネット有利子負債	243,163	209,353	33,810	13.9%

(2) 純資産の状況

(単位:百万円)

	平成18年3月期	平成19年3月期	前期末比	
			増減額	増減率
資本金	27,781	27,781	0	0.0%
資本剰余金	26,888	26,888	0	0.0%
利益剰余金	16,577	13,336	3,241	-
自己株式	144	174	30	-
株主資本合計	37,947	41,158	3,211	8.5%
評価・換算差額等	3,167	2,785	382	12.1%
純資産合計	41,114	43,943	2,829	6.9%

**・中期経営計画「NewKG200」の総括
(平成17年3月期～平成19年3月期)**

1. 重点目標

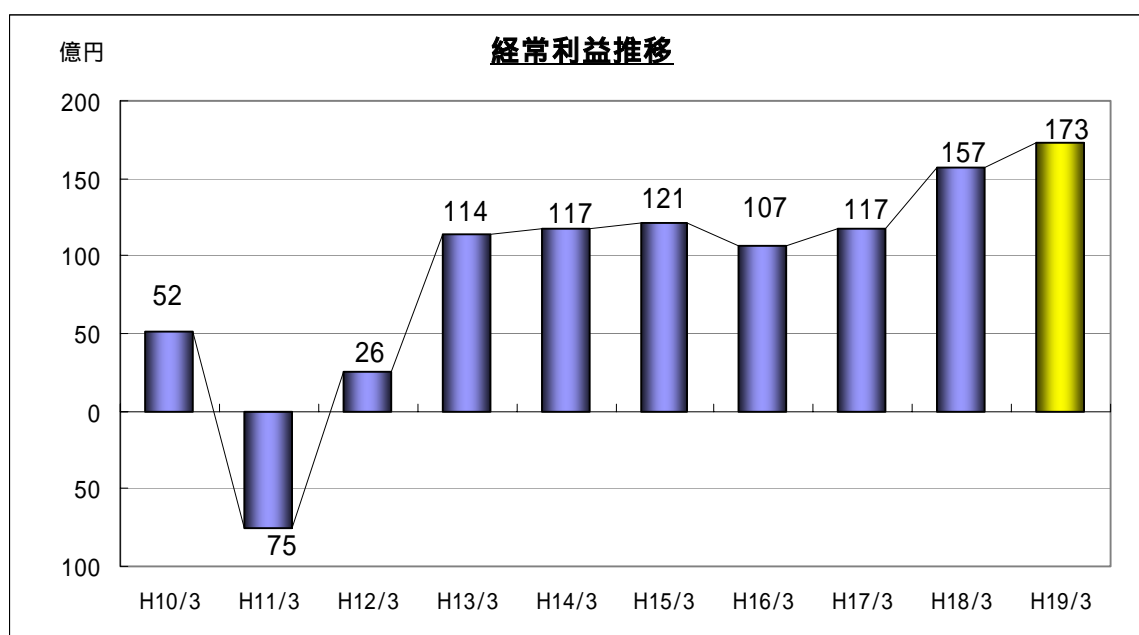
平成 19 年 3 月期	実績	(当初計画)
◆ 連結経常利益	173 億円	200 億円
◆ 当期純利益	75 億円	100 億円
◆ ネット有利子負債	2,049 億円	2,500 億円
◆ ネット D E R	6.2 倍	6 倍
◆ 資金効率 (投下資本経常利益率)	7.3%	6%以上

(単位:百万円)

	平成16年3月期	前中期経営計画「NewKG200」			NewKG200 当初の平成19年 3月期計画
		平成17年3月期	平成18年3月期	平成19年3月期	
売上高	818,473	886,876	1,096,409	1,281,331	1,000,000
売上総利益 (売上総利益率)	62,208 7.60%	68,142 7.68%	81,732 7.45%	103,711 8.09%	80,000 8.00%
営業利益 (売上高営業利益率)	13,554 1.66%	15,762 1.78%	17,982 1.64%	21,713 1.69%	24,500 2.45%
経常利益 (売上高経常利益率)	10,706 1.31%	11,720 1.32%	15,709 1.43%	17,255 1.35%	20,000 2.00%
当期純利益 (売上高当期純利益率)	3,247 0.40%	2,469 0.28%	21,686 -	7,507 0.59%	10,000 1.00%
<参考>基礎的収益力	10,730	12,307	15,342	17,764	

* 基礎的収益力 = 営業利益 + 貸倒引当金繰入額 + 金融収支 + 受取配当金 + 持分法損益

- 売上高は、当初計画の1兆円を上回る1兆2,813億円を達成。
- 経常利益は3年連続で過去10年の最高益を更新。当初計画200億円には及ばなかったものの173億円を計上し、NewKG200の3年間で65億円(60%)の増益を達成。
- 「NewKG200」の3カ年で営業基盤が着実に拡大し、収益力は大幅強化。



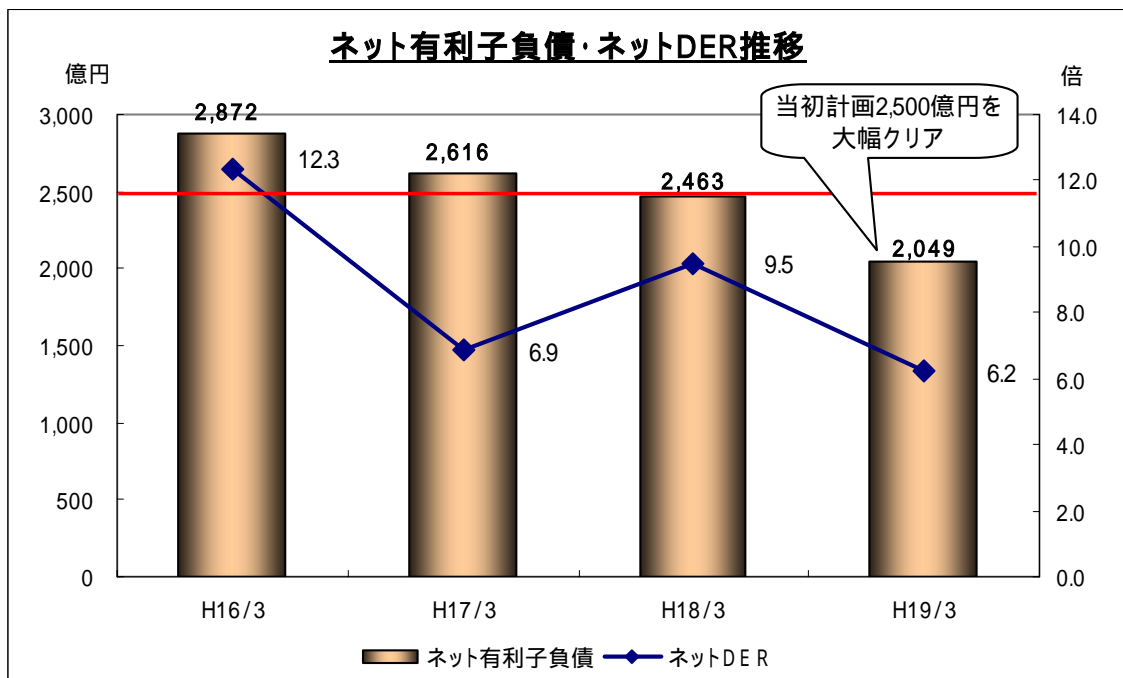
(単位:百万円)

	平成16年3月期	前中期経営計画「NewKG200」			NewKG200 当初の平成19年 3月期計画
		平成17年3月期	平成18年3月期	平成19年3月期	
総資産	507,991	520,118	556,046	563,176	500,000
自己資本	23,283	38,029	26,004	32,959	42,500
自己資本比率	4.6%	7.3%	4.7%	5.9%	8.5%
ネット有利子負債	287,245	261,560	246,317	204,901	250,000
ネットDER	12.3	6.9	9.5	6.2	5.9
資金効率	3.4%	3.9%	5.8%	7.3%	6.8%
ROA(経常利益ベース)	2.1%	2.3%	2.8%	3.1%	4.0%
ROE(経常利益ベース)	46.0%	30.8%	-	52.4%	47.1%

* 自己資本 = 純資産 - 少数株主持分

* 資金効率 = 経常利益 / (ネット有利子負債 + 自己資本)

- リスク資産の圧縮・流動化を積極的に推進した結果、アセットクオリティは格段に向上。
- 営業基盤並びに事業領域の拡大により総資産を 5,632 億まで積み上げる一方、ROA*は 3.1%に改善。 *ROA = 経常利益 / 総資産
- 自己資本は、平成 18 年 3 月期に行った資産内容の見直しにより、一旦減少したものの、その後の内部留保の積上げにより 330 億円まで増強。その結果、自己資本比率は 5.9%に改善。
- ネット有利子負債は一段の削減を進め、当初計画の 2,500 億円を大きく下回る 2,049 億円を達成。その結果ネット DER は 6.2 倍まで改善。



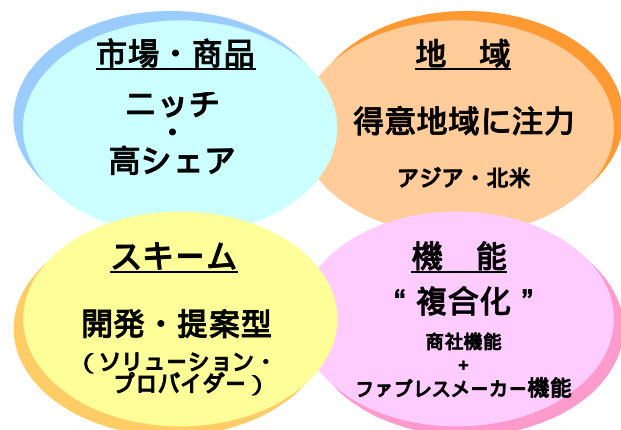
2. グループ経営革新の推進

- ITソリューション分野のシナジー強化を目的として、兼松エレクトロニクスとメモレックス・テレックスを統合。また航空機事業等の強化を目的として新東亜交易を買収。
- 繊維事業は、本邦における産業構造の変化に対応し、世界トップレベルの繊維商社 Li & Fung グループと戦略的資本提携につき合意。
 - ➡ 2005(平成 17)年 5月 メモレックス・テレックスを完全子会社化。
 - ➡ 2005(平成 17)年 11月 兼松エレクトロニクスを連結子会社化。
 - ➡ 2005(平成 17)年 12月 日本オフィス・システムがジャスダックに上場。
 - ➡ 2005(平成 17)年 12月 航空機、自販機用飲料などを得意とする新東亜交易(株)を子会社化。
 - ➡ 2007(平成 19)年 2月 兼松エレクトロニクスとメモレックス・テレックスを統合。
 - ➡ 2007(平成 19)年 3月 Li & Fung グループと、兼松繊維の資本提携につき合意。

3. 営業推進力の強化

4つの視点で戦略設定した「兼松ビジネスモデル」

- NewKG200 においては、市場・商品、地域、スキーム、機能の4つの視点から戦略設定したビジネスモデルに沿って、営業を推進。
- バックアップ体制として、新規取引用資金枠 300 億円を設定、またビジネスインキュベーションチームを設置。



市場・商品 ~ ニッチ・高シェア ~

- ➡ 米国向けデジタルカメラ用プリンター輸出の大幅増額。
- ➡ ベトナムでの貨物船造船受注開始。船用資材・鋼材調達では部門間のコラボレーションを推進。
- ➡ 米国ロッキードマーチン社の代理店として次世代放送衛星 BSAT - 3a の販売権を獲得。

スキーム ~ 開発・提案型 (ソリューション・プロバイダー) ~

- ➡ 乳酸菌入り殺菌混合飼料「ラクセルフォース」(高安全性の飼料)を開発、販売。
- ➡ カーギル社の リポ酸の輸入・販売を本格化。ユニークな機能性素材を提案。
- ➡ 兼松コミュニケーションズの携帯コンテンツ事業を分社独立。
- ➡ バイオガス事業、排出権取引に参入。

地域 ~ 得意地域に注力 ~ アジア・北米

- ➡ ベトナム国道改修プロジェクトで初の日本製信号システムを納入。
- ➡ インドネシアでの地熱発電所プロジェクトの受注拡大。
- ➡ 中国山東省における加工野菜・フルーツの生産・販売を行う合弁工場を本格稼働。

機能 ~ “複合化” = 商社機能 + ファブレスメーカー機能 ~

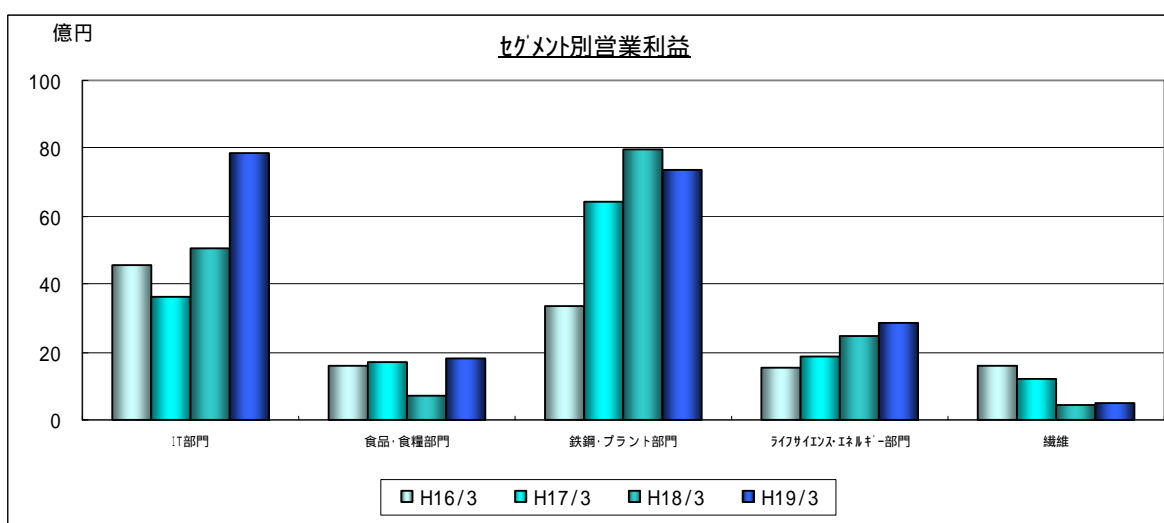
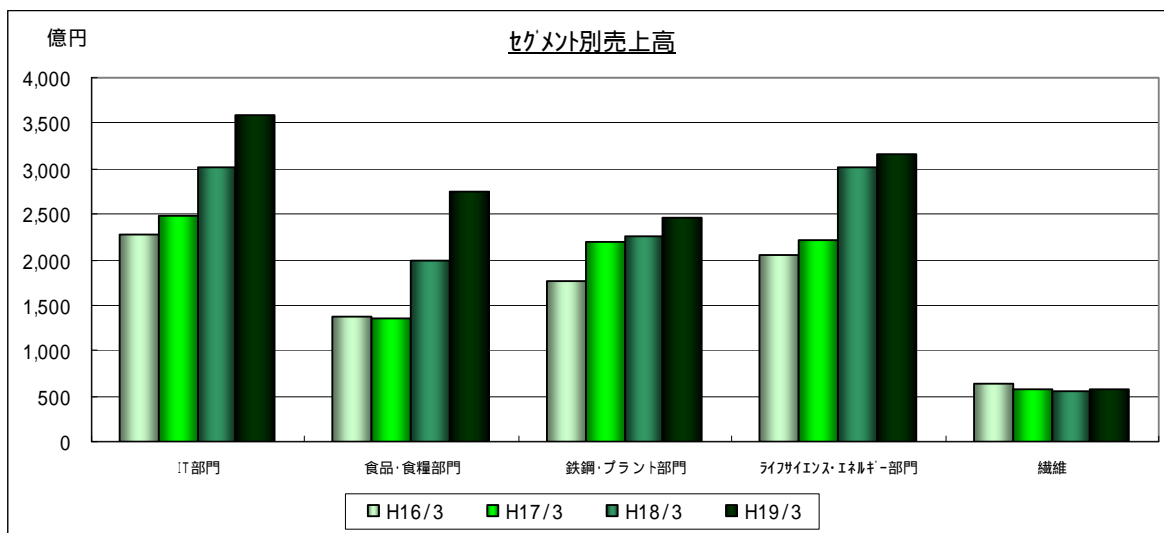
- ➡ 無線機、バッテリーモジュールのコンセプト設計・生産の規模拡大。
- ➡ 太陽電池塗膜剤のノウハウを買収、製品輸出を拡大。

4. セグメント別の収益成長

■ 繊維を除く全営業部門で収益が拡大。

(単位:百万円)

	売上高				営業利益			
	平成16年3月期	前中期経営計画「NewKG200」			平成16年3月期	前中期経営計画「NewKG200」		
		平成17年3月期	平成18年3月期	平成19年3月期		平成17年3月期	平成18年3月期	平成19年3月期
IT部門	227,922	249,170	302,521	357,954	4,561	3,612	5,032	7,913
食品・食糧部門	138,431	134,388	199,350	274,163	1,568	1,711	705	1,806
鉄鋼	97,997	118,159	124,605	142,687	2,359	5,440	5,453	5,475
プラント	79,091	101,837	101,922	104,437	1,014	1,002	2,502	1,945
鉄鋼・プラント部門	177,088	219,997	226,528	247,125	3,373	6,443	7,955	7,421
エネルギー	177,170	188,155	263,473	276,852	845	1,149	1,922	2,492
ライフサイエンス	28,718	32,408	28,816	31,538	697	728	567	360
ライフサイエンス・エネルギー部門	205,888	220,564	292,289	308,395	1,542	1,877	2,490	2,852
繊維	64,240	57,926	55,620	57,757	1,581	1,187	424	486



MEMO

. 参考資料（決算短信、貿易記者クラブ回答）

<http://www.kanematsu.co.jp>

2007年5月31日

 **兼松株式会社**
KANEMATSU CORPORATION

お問い合わせ先

〒105 - 8005 東京都港区芝浦 1 - 2 - 1 シーパルスN館
URL <http://www.kanematsu.co.jp>

広報室

Tel: 03.5440.8000 Fax: 03.5440.6503
E-mail: pr@kanematsu.co.jp

IR事務局

Tel: 03.5440.8095 Fax: 03.5440.6505
E-mail: ir@kanematsu.co.jp